

英語学会と *JELS* について*
(On ELSJ and *JELS*)

日本 英子 (Eiko Nihon)
英語大学 (Eigo University)

キーワード : AAA, BBB, CCC, DDD, EEE

1. はじめに

ここから、本文を始める。セクションタイトル、およびサブセクションタイトルは太字にする。

このファイルの不要な箇所を削除し、このファイルからファイル名のみ変更し、上書き保存する形で使用すること。絶対に、「.doc」のファイル形式から変更しないこと。「.docx」に変更した場合、正しく表示されないことがある。

脚注を使用する場合¹←このように対応する本文の箇所に上付き数字をつけて、注の内容は文末に記載すること。<絶対に MS-Word の脚注機能を使用してはならない。脚注機能を使わずに注を書くこと。>

- (1) a. John kicked the bucket.
b. *The bucket was kicked (by John).
(2) How many cars did they say that the mechanics fixed ___? (Chomsky (2013: 47))

タブ機能やインデントを調整して、例文を整えること。例文同士は行間を空けず、本文と例文の間は1行空けること。

2. 改行の注意点について

右上の段落を参照すること。

2.1. 段落の先頭行について

(サブ) セクションと (サブ) セクションの間には1行間をあける。ただし、左右それぞれの段組の1行目はこのルールとは関係なく、空白行にはしない。

また、サブセクションのタイトルがセクションタイトルのすぐ後にくる場合、両者の間に空白行を入れないこと。

2.2. 謝辞と注について

本文と謝辞又は注の間には1行空けること。ただし、この空白行が左右それぞれの段組の1行目にくるときは、この限りではない。

* 謝辞を入れる場合は、本文との間に1行空け、論文タイトル右端に上付きでアスタリスクを付けておき、この位置に記入する。謝辞のみで、脚注がない場合、下の「注」は削除すること。謝辞と注の間は1行空けない。

注

¹ 「脚注」を入れる場合は、1番目の脚注をここから記入する。対応する脚注番号を上付き文字で記入すること。

² 以下の参考文献は、見本として書かれたものである。参考文献を記入する際は、アルファベット順にすること。

³ 参考文献と謝辞又は注との間に1行空けること。

⁴ 以下の、大庭・島 (2002)のように和文の文献と英文の文献を分けずに記載すること。

(掲載順序は、英文文献と同じくアルファベット順とする。)

⁵ 学会等の口頭発表や流通している未出版論文を引用してもよいが、それと同じ内容がすでに論文として公刊されている場合は、できるだけ、公刊されている論文の方を引用すること。

参考文献

Belletti, Adriana and Luigi Rizzi (1981) “The

- Syntax of *ne*: Some Theoretical Implications,” *The Linguistic Review* 1, 117-154.
- Bošković, Željko (2014) “On Extraction from Clausal and Other Complements Functioning as Phases,” paper presented at the workshop “On the Phasehood of CP and Other Projections,” in the 32nd Conference of the English Linguistic Society of Japan, Gakushuin University, Tokyo.
- Bresnan, Joan (1972) *Theory of Complementation in English Syntax*, Doctoral dissertation, MIT. [Published by Garland, New York, 1979]
- Chomsky, Noam (1981a) “Principles and Parameters in Syntactic Theory,” *Explanation in Linguistics: The Logical Problem of Language Acquisition*, ed. by Norbert Hornstein and David Lightfoot, 32-75, Longman, London.
- Chomsky, Noam (1981b) *Lectures on Government and Binding*, Foris, Dordrecht.
- Chomsky, Noam (2013) “Problems of Projection,” *Lingua* 130, 33-49.
- Emonds, Joseph (1972) “Evidence That Indirect Object Movement Is a Structure-Preserving Rule,” *Foundations of Language* 8, 546-561. [Reprinted in *The Formal Analysis of Natural Language*, ed. by Maurice Gross and Morris Halle, 1973, 73-87, Mouton, The Hague.]
- Fukumoto, Yosuke (2007) “On the Diversity of the Acceptability of Top-*Wh* Sequences in English,” *JELS* 24, 41-50.
- Huck, Geoffrey J. and Almerindo E. Ojeda, eds. (1987) *Discontinuous Constituency, Syntax and Semantics* 20, Academic Press, New York.
- Lightfoot, David and Amy Weinberg (1988) “Review Article: *Barriers*, by Noam Chomsky, MIT Press, Cambridge, MA, 1986,” *Language* 64, 366-383.
- Obata, Miki (2014) “Labeled vs. Unlabeled Syntactic Objects,” 日本英語学会第32回大会ワークショップ「ラベルについて」学習院大学, 東京.
- 大庭幸男・島越郎 (2002) 『左方移動』研究社, 東京.
- Pesetsky, David (1989) “The Earliness Principle,” ms., MIT. <<http://web.mit.edu/linguistics/people/faculty/pesetsky/earliness.pdf>>
- Postal, Paul M. (1969) “Anaphoric Islands,” *CLS* 5, 205-239.
- Quirk, Randolph et al. (1987) *Longman Dictionary of Contemporary English*, Longman, London.
- 清水啓子 (2013) 「間主観性、および行為と意図のメトニミー関係からみた行為解説の進行形」日本認知言語学会第14回大会口頭発表.
- Takahashi, Masahiko (2012) “Case and Phases 1: Nominative/Accusative Conversion in Japanese,” paper presented at Keio Linguistics Colloquium, Keio University, Tokyo.
- Yusa, Noriaki (1995) “Scope in Minimalist Syntax,” (Review Article: *Syntax of Scope*, by Joseph Aoun and Yen-hui Audrey Li, MIT Press, Cambridge, MA, 1993,) *English Linguistics* 12, 319-346.
- Zwicky, Arnold (1983) “An Expanded View of Morphology in the Syntax-Phonology Interface,” *Proceedings of the 13th International Congress of Linguists*, 198-208.

補足

<和文の参考文献の記述方法>

①掲載ページの前には、半角カンマと半角ス

ペースを入れる。

②論文名の後に編者名が続く場合、編者名の前に半角カンマと半角スペースを入れる。

③「」と『』が連続する場合は両者の間に半角カンマと半角スペースを入れる。

④「」、『』の前後はカンマ及びスペースを入れない。

⑤()の前後には半角スペースを入れる。ただし、)の直後にコンマや全角の記号を付す場合は、)の後の半角スペースは不要。

⑥その他は、英文論文と同様にする。

☆①～⑥の優先順位とする。

福井直樹 (1998) 「極小モデルの展開」, 田窪行則他 (編) 『生成文法』 (岩波講座言語の科学第六巻), 161-210, 岩波書店, 東京.

藤田耕司 (1997) 「最適派生理論の最適化に向けて」, 『英語青年』 5月号, 74-76.

福岡言語学研究会 (編) (1993) 『言語学からの眺望』 (福岡言語学研究会 20 周年記念論文集) 九州大学出版会, 福岡.

塚本聡 (2013) 「大名力『言語研究のための正規表現によるコーパス検索』」書評『英文学研究』90 巻, 155-160, 日本英文学会.

廣瀬幸生 (1996) 「Adele E. Goldberg: *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*」書評『英文学研究』73 巻 1 号, 170-174, 日本英文学会.

川瀬義清 (1998) 「認知的観点から見た進行形の意味」 *KLS (Kansai Linguistic Society)* 18, 155-165.

桐生和幸 (1997) 「結果述語構文の言語類型論的研究」 関西言語学会第 22 回大会口頭発表.

小泉保 (1997) 『ジョークとレトリックの語用論』 大修館書店, 東京.

松本曜・田中茂範 (1997) 『空間と移動の表現』 研究社出版, 東京.

盛岡ハインツ・梶田優 (編) (1994) 『海外言語学情報』 (第 7 号) 大修館書店, 東京.

大阪太郎 (未公刊) 「Donkey 文の解釈について」 未公刊論文, 日本英語大学.

大津智彦 (1993) 「現代イギリス英語における目的語節を導く *that* の有無について」, 『論集』 第 9 号, 41-50, 大阪外国語大学.

東京花子 (印刷中) 「英語統語論について」, 『日本英語学研究』 日本英語出版.

吉村あき子 (1996) 『否定極性現象』 博士論文, 大阪大学.

< 翻訳の場合 >

Freud, Sigmund (1905) *Jokes and their Relation to the Unconscious*, Moffat Ward, New York. (フロイト, ジグムント. 生松敬三訳 『機知-その無意識との関係』 人文書院, 東京, 1970)

Radcliff, Allan (1940) “On Joking Relationships,” *Africa* 13, 195-210. (ラドクリフ, アラン. 青柳まちこ訳 『未開社会における構造と機能』 (第 4 章) 冗談関係について」 新泉社, 東京, 1975)